

神奈川大学教職課程指導室

学校ボランティア通信

内容

2年間の活動を通じて感じたこと

小野 啓之

小学校ボランティアから得たもの

瀬尾 修典

栗田谷中学校でのボランティアを通じて学んだこと

北村 一真

2年間の活動を通じて感じたこと

2006年経済学科卒業 玉川大学通信教育部 小野 啓之

私は一昨年の3月からアシスタントティーチャー（以下AT）として寺尾小学校へ、昨年の7月からは特別支援教室の非常勤講師として太尾小学校へ勤務させていただいています。お蔭様で4月から神奈川県内の小学校教員に採用されましたので、今回は2年間のボランティアの経験と約半年の非常勤講師の経験を振り返ってみたいと思います。以下で、活動を進める上でとても大切だと感じた、1.「コミュニケーション力（教師間との連携）」と2.「活動を見守ってくれる存在」の2つに分けて書きます。これからボランティアを始める学生さんや、今現在ボランティアをされている方にとって少しでも参考に、そして助けになればいいと考えています。

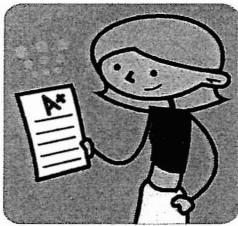
1. コミュニケーション力（教師間の連携）

ATと非常勤講師は少し違うと考える人がいるかもしれませんが、よく似たところもあります。私の活動内容を簡単に言えば、ATでは教室で落ち着きのない子や、勉強に遅れがちな子に寄り添う活動を、非常勤講師としては、普通級に在籍している軽度発達障害を抱える子どもや、学習に遅れがちな子どもを1日に1時間程度別の教室に呼び、個別に授業をするという活動を行っています。どちらの活動も、軽度発達障害を抱える子どもや、学級で「気になる子」と呼ばれる子ども達にかかわる、寄り添う活動というところで似ています。ATや、非常勤講師としてこのような子ども達に接する時、様々な問題が起きます。

例えば学級に入り補助する場合、ATとして先生、子ども達にどのように受

け入れられるかといった問題が起きます。もちろん先生方や子ども達と良い関係を築くためには時間がかかり、最初からうまくはいきませんが、「一人先生が増えて授業を受ける」ということに先生と子どもの両者が戸惑うこともあります。それは「先生は何でいるの??」「先生は〇〇君担当の先生でしょ??」といった子どもの言葉からもわかることです。一人教室に先生が増えることで、「教室に何か問題がある」「あいつがいるからもう一人先生が来る」といった価値観を子どもは持ちかねません。また、そのことで、「気になる子」と呼ばれている子が、「自分は問題児なんだ」「〇〇先生からいつも監視されているみたいだ」といった考えを持つかもしれません。小学校に2年間通い再認識したことです。子どもたちは「特別扱い」や「えこひいき」に対し敏感で、そして嫌います。

2年間の活動を通し、このような問題に対応するために最も大切だと感じるのは、担任の先生との連携をとることです。具体的に言えば、学級の中で気になる子は、「どのような特徴を持っているのか」、「今何を目標にして学習を進めているのか」、「どこまでの行動が許されるのか」といったことを詳しく聞くことです。そして、可能ならAT、非常勤としてどうしてその学級に自分がいるのか、担任の先生が説明してくれることが望ましいところですが、それはあまり容易ではないようです。このように、子どもとの対応や、活動の様子を少しでも先生と話すことで、私たちATと先生の間にも安心感が生まれ、それが子どもの間にも浸



透していくと思います。

私がここで書いたことはごく一部であり、言葉で述べるほど簡単なことではないと思います。誰でも初めて接する人、ましてやそれが学校の先生方や子どもたちなら戸惑うことも多いと思います。活動を続ける中で感じる思いや願いを、先生や子どもに伝えながらがんばってほしいと思います。

2. 活動を見守ってくれる存在

2つ目に述べたいことは、AT、非常勤の活動を支えてくださった先生方、子どもたちへの感謝の思いです。学生として学校教育に参加することは、私にとって大きな喜びで、期待も大きかったのですが、同時にとても不安なことも多かったです。特にATとして活動を始めたばかりの時は、まず自分の居場所、存在感を見出すことが難しかったです。それは、「今日はどのクラスに行けばいいんだろう」またそれを「どのタイミングで先生に聞こう」といった職員室でのことから、「子どもにこんなことを言われてしまった、どうしようか」「子どもが先生のいない時にこんなことをしていたが、どうなんだろう」といった生徒指導に関することまで様々でした。そのような日々の悩みを受け止めてくれたのが、学校にいる先生方であり、子どもたちでした。朝、職員室に入ると、「おはようございま

す！今日もよろしく願います！」と温かく声をかけてくれる先生、「今日は2年3組をお願いします！」と活動を提供してくれる先生、「先生、今日はありがとうございました、助かりました」と私の活動を認めてくれる先生が周りにいつもいました。そして学級や廊下、校庭では温かく、そして厳しい眼差しで見守ってくれる子どもたちがいました。子どもたちはいつも素直で、私のかかわり方、指導の仕方に対して反応を示し、それが私にとっては評価になりました。私の指導や、声かけ、指示が適切でないときは教室がざわついたり、すぐに次の行動に移せなかったり、そんな時は子どもが「先生ももっとこうしたほうがいいよ」と教えてくれたこともあります。

AT、非常勤の活動を続けてこられたのも、活動における私の行動に対し、先生方や子ども達からの温かい反応があったからです。それは、自分が成長する上でも、子どもが成長するのと同じように、「活動を見守ってくれる存在」「活動を認め、評価してくれる存在」がとても大切だということに改めて気付かせてくれる経験でした。長い間お世話になった先生方と子どもたちに感謝したいです。そして、4月からATとしての活動や非常勤で学んだ経験を生かし、教師としてがんばりたいです。

小学校ボランティアから得たもの

2007年経済学科卒業 明星大学通信教育部 瀬尾 修典

私が大口台小学校にATのボランティアとして行くようになってもうすぐ1年が経つ。1年前に小学校免許取得を目指し通信課程の大学に行くことになり、空いている時間に何か子どもたちと触れ合えることがないかと考えていたときに紹介していただいで行くようになった。

小学校でのボランティアは本当に得るものが多く刺激的である。学校では、授業はもちろん、休み時間、給食、掃除、行事等、子どもたちと接する様々な場面があり、毎日いろんなことが時間や場所を選ばず起こる。そんな学校にいて常に教師に必要なことを学ぶことができる。

ボランティアを始めたばかりのころのことだ。図工室の掃除の監督をすることになった。図工室に行ってみると、鍵が無く入り口からは入れなかったので、児童の1人が下の小窓から中に進入して鍵を開けて入っていたのである。当然注意すべきことであつたのだが、「しょうがないな。今度はちゃんと鍵持ってきて開けてね。」と軽く流してしまった。そこへ通りかかった先生がそのことに気づいて、子どもたちを集めて厳しく注意をした。その理由は、もしそんな小窓から入って怪我をしたらどうする、鍵を持って行ってないから災害などがあつたときに図工室に入っていると把握で

第7号

きない、といったことだ。そのとき私ははっとした。子どもたちは軽い気持ちでやってしまったことであるが、それは大変危険なことだったのである。私はそんな危険なこととは考えられず注意できなかったが、教師は常に子どものことを考えて適切な判断をしなければならないのである。この出来事から教師に必要な寛容と厳しさ、子どもに対する姿勢、安全性の考慮などたくさんのことを学ばせていただいた。

児童とのかかわり以外にも得るものはたくさんある。例えば、実際にいろいろな先生方の授業や学級経営を見ることである。先生によってそれぞれ特徴があり、授業では進め方や黒板の板書の仕方、ワークシートなどの使い方、学級経営では座席の形や掲示物、給食の配膳の仕方、掃除の仕方などそのクラスごとに先生の工夫が見られる。そういったものを見ることで、自分が担任になったとき、これ取り入れてみたい!こんなふうになりたい!といったイメージを持つことができ、とてもプラスになっている。

そして私は教育実習もこの大口台小学校で行わせていただいた。通信課程で学び、実習をする場合どうしても実習の内諾が遅くなってしまう、残念ながら母校で実習をすることができなかった。そんなときボランティアの縁でこの大口台小学校にお願いしたところ、快く受け入れていただきとても助かった。実習では皆知っている先生たちなので、わからないことは遠慮無く教えていただくことができ、また先生方も気になった点についてはほとんどアドバイスを

してくれる。2週間という短い期間では、できることや得られることに限りがある。しかし私は大口台小学校でやらせていただいたことで、とても有意義な実習を行うことができた。ボランティア校での実習はこれ以上ない理想的な実習ではないだろうか。

以上のようにボランティアでは多くのことを経験させていただいた。私としては実習校とボランティア先が一緒なので1年間通して教育実習をさせていただいているような感覚だ。1年間もやらせていただく、ほんとに多くの子どもたちとかかわることができ、子どもたちからは「4月から大口台に来て担任になってね。」なんて嬉しいとも言われるようになった。私は、学校ボランティアは教師の仕事の良いところ取りだと思う。なんといっても、大変な研修もなければ文書作成もなく、常に子どもたちとかかわっていられるのだから。そんなボランティアも残り少なくなってきたが、良いことを伸ばし間違ったことを反省し、教師になったときこれらを存分にいかしていきたい。すべては子どもたちの笑顔のために。



栗田谷中学校での学校ボランティアを通じて学んだこと

応用化学科 4年 北村 一真

私が栗田谷中学校で学校ボランティアを始めたのは、三年生の春休みの終わりからでした。そこからおよそ一年間、月に二回ほどのペースで継続的に学校ボランティアをしていく中で、私は学校という場所を肌で感じる事ができ、生徒たちや先生方との会話などから多くを学ぶだけでなく、教

員として働いていきたいという意欲が以前にも増して湧いてきました。

栗田谷中学校では、私はATとして活動をしてきました。私の専門の科目は数学で、主に数学の授業でアシスタントをさせてもらいました。AT、すなわち授業のアシスタントをしながら、教員としての勉強もたく

さんさせてもらいました。先生方の教科指導はもちろんです、クラスによって雰囲気や驚くほど異なると実感できたことがとても勉強になりました。さらに言えば、生徒一人ひとり、誰もがとても個性的です。こんな当たり前のことですが、学校ボランティアを経験していなければ、おそらく実際に教壇に立つまで本当の意味で気付くことはなかったと思います。

また、栗田谷中学校では他の学校に比べて自由にいろいろなことをさせてもらえるので、長期休暇中の補習や自分の専門の科目以外の授業、特別支援学級での授業も見学したりできました。数学の授業だけではわからない生徒たちの姿や、先生方の授業の工夫を見られるというのは、とても大きなことだと思います。なかでも、特別支援学級での授業に参加できるというのは、学校ボランティアでもしていない限り、そう簡単には経験できないことです。もし本気で教員を志望しているのであれば、必ず経験するべきだと私は思います。

先にも言ったように、栗田谷中学校ではいろいろなことを自由にやらせてもらえます。しかし、それはこちらから積極的に動くことが前提です。予めもらえる時間割と予定表をみて、行きたい授業の担当の先生にその旨を前もって伝える必要があります。先生方は快く引き受けてくれます。しかし自分の予定は自分で積極的に組んでいくのが原則です。先生方が忙しい中ボランティアをさせていただいている身なので、それくらいのことはこちらが進んで行くことがマナーだと思

います。

教員を目指す人にとって、学校ボランティアはとても貴重な経験になると思います。大学の授業もあるので教育実習のように一日中学校に居ることは難しいですが、教育実習とは違い、長い期間にわたって継続的に学校に居ることができます。そのため、学校ボランティアでないと経験できないこともたくさんあると思います。さらに、栗田谷中学校ではいろいろな活動ができます。また、先生方もとても親切です。空いている時間に先生方からいろいろな話が聞けます。中学校や高校の生徒であったころにはなかなか見られない先生方の素が見ることができるともおもしろいと思います。私が一番勧めたいのは、授業が終わって職員室に戻るまでの数分間に、先生方からアドバイスをもらうことです。そのときの授業のポイントや、私たちのアシスタントの様子を見て気付いたことを教えてくれます。私はこの数分の使い方がとても重要だと思います。

学校ボランティアで得られるものはとても大きいと思います。積極的に先生方や生徒たちに話しかけ、たくさんのことを学び取っていきたいと考えます。



神奈川大学教職課程指導室

電話 045 (481) 5661
FAX 045 (413) 4154
Email: educ@kanagawa-u.ac.jp